

釣りアイドルみっちい 参戦!!



No.108 瀬戸内海 みっちいとボートDEフィッシング特別編〈真鯛〉

今回は胸突きサビキ、チョクリ、タイラバを使用して、真鯛を釣りたいと思います。

瀬戸内の真鯛は瀬戸内海の西の方（小豆島の西側近辺）や明石大橋の手前、大鳴門橋の手前などで産卵し、生まれた稚魚は比較的浅い小島や、沿岸付近のエサの豊富な場所へ移動し、成長すると元の産卵場所へ戻ってくるらしいです。（水産庁調べ）

真鯛はベイト（イカナゴなどの鯛のエサ）や水温、海中酸素の濃度のなどの条件が良いとよく釣れるのですが、今年はイカナゴの激減で少しいつもとは違う様子です。

しかし、この季節の真鯛はまさに産卵期で雌のお腹には真子、雄には白子が入っており、鯛の真子は煮つけにすると美味しく絶品で、白子は湯引きや白子焼きで食べると、濃厚でクリーミーな味わいで食通をうならせるほどの食材と言われています。

ボートフィッシングでは、この天然真鯛をまだまだ釣る事ができます。

今年は皆さんもボートで真鯛釣りをしてみたいはいかがでしょうか。

釣りアイドルみっちい参戦 瀬戸内海! ボートDEフィッシング 真鯛 実践編

4月12日 使用艇 YAMAHA FG-35

大潮 満潮11:10 干潮17:29 天候晴れのち曇り

8:00 出航。今回はみっちいさんをゲストに呼んでのボートフィッシングです。今回特別に那須会長、三村カメラマン、西川船長にも協力いただいている実践編です。

本命真鯛狙いで、仕掛けはチョクリ仕掛けと胸突きサビキとタイラバで釣っていきたく思います。

8:40 ポイント到着。本日は天候が北西の風が強く白波が立ち、スピードを落としながら安全航行での航行。ここは水深30m数か所に沈み岩があるポイント。

魚探で辺りを探索するも反応なし。一発勝負の実践編なので、このポイントは見切りすぐさま移動。一気に小豆島へ。

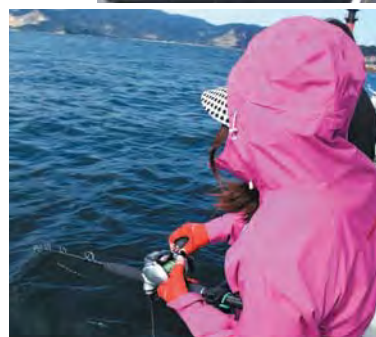
9:10 第二ポイント到着。ここは小豆島真鯛釣りのメッカ小磯の灯台。45mから灯台めがけて一気に駆け上がる絶好のポイント。例年ならこの時期になると、プレジャーボートがわんさか押し寄せ、熱気を帯びているのですが、今日は2、3隻程度と天候の影響も若干あるのか、ポイントが広々しています。

まずは灯台周りを魚探で探索。水深25m前後の少し水深浅めの灯台東南ポイントで反応あり。

ここで仕掛けを落とすとしよう。

風が強くスパンカーを上げて、ボートを風に立て、流し釣りスタート。風も強く潮も大潮とあって、潮流も強めなので、リールの巻き上げスピードは超スローでセットして潮流との兼ね合いを調整しています。

しばらくの間、強風の中頑張ってみるも全くアタリナッシング。みっちいさんに釣ってもらえないといけなないとプレッシャーが平常心を乱していく。



10:30 何回も反応にボートを寄せて仕掛けを投入し誘ってみるも、アタリはなし。潮も上げ9分で緩くなってきた。ここは気持ちを整えて、潮変わりの時合いを狙おう。

11:30 潮変わりタイムもすぎましたが、アタリは全くなし。さぁどおしよう。みっちいさんの美貌に瀬戸内の魚もビックリして隠れてしまったようです。（次号へつづく）

釣る方法

- 魚探で群れを探そう
- 仕掛けを底まで落としゆっくり巻き上げよう

ワンポイントアドバイス

- 真鯛釣りは色んな釣り方があります。タイラバ、サビキ、チョクリ、コマセなど。自分のスタイルに合った釣り方を見つけよう!

ただ今、Face Bookでリアルタイム釣果配信中!!



プロフィール

三宅 毅 (みやけ つよし)  
兵庫県出身 1972年生まれ  
相生マリンセンター代表  
[現在のおもな成績]  
真鯛65cm・メバル31cm・カジキ5本

師匠の独り言

ここで一句

瀬戸内の 水面に映える 花一輪

……おあとがよろしいようで(笑)

# みっちい桜鯛ビッグファイト!

……春の瀬戸内海 釣りの道行

釣り人 みっちい

同行者 FG-35船長  
S&S協議会会長

西川氏  
那須裕史  
(みっちいサポート隊 隊長)

三宅 毅  
(みっちいサポート隊 副隊長)

ポートDEフィッシング著者



平成29年4月12日(水曜日) ……………

前日4月11日は久しぶりの低気圧が瀬戸内海を横断しました。数日前から想定内の天候でしたのでさほど驚きもなかったわけですが、東京の『女性アングラー みっちい』さんへ一報を入れ『アタックは12日となりますのでよろしく!』とお願いをしておきました。

しかし、思ったよりも低気圧の通過が伸びたため、船長とみっちいサポート隊は焦りのため表情筋がカチカチ!取材撮影班にも伝播してしまいました(+o+)

前日入りしてもらったみっちいさんを囲んでの爆釣り願掛け乾杯会では、SEA&SEA読者の皆さんのために直筆サイン色紙とYAMAHAオリジナルTシャツ(今は秘密(^^)へのサインをおねがいしました。これは今月号と来月号の読者プレゼントです。お楽しみに!!



さて、12日朝、前夜の低気圧通過の遅延で相生港からの出航を少しだけ遅らせました。

この釣行では、完全フル装備(フィッシングギア満載)のヤマハFG-35。詳細なことはここに書けませんが、瀬戸内海でのポートフィッシングに関しては最上位のセッティング。取材班もビックリ!…言いたいけど言えない…そんな完全装備艇です。

ポイントまで艇を走らせている最中、船長達サポート隊はなにやら困惑顔。…『水温が上がってこない。活性が悪そう。』

FG-35はシャフト船。V字ハルの波切も良く、ペラから吐き出す水流も力強く、ぐんぐん加速します。残り低気圧による多少の波も切り分けて40分ほど走らせてポイント到着。釣り師たちにはよく知られたこのポイント。魚探を見る限りでは、70cmオーバーの姿もそこそこに見えています。40cm前後の型良しも相当の数が見えています。

船長の号令一発、みっちいの桜鯛ビッグファイトの幕が開きました(^^)

← 詳しい釣行は『ポートDE フィッシング!』の三宅さんに誌面をお譲りします。(^^)/



てなことで、結局全く活性のない鯛さん達(+o+)。我らの勝利はこの一竿にあり!とばかりに、みっちいさんも孤軍奮闘!しかし…魚探ではこんなに見えているのに…鯛が振り向いてくれません。僕ら親爺のパワーなぞ知れたものですが、みっちいさんのオーラとテクニックをもってしても何ともなりません。

どんよりとした重苦しい空気がFG-35の中に立ち込めます。取材撮影班の私は気が気ではありません。なにせ写真が取れなかったら今回のこの企画の根底が崩壊するのですから…

意を決した西川船長と三宅副隊長。『これから秘密のポイントに移動します。魚種は変わるかもしれませんが、みっちいさんの秘技をもってして釣上げましょう!』ってな会話があったかなかったか?

海原の向こうに光明が見えました\(^o^)/

ここからその秘密のポイントへ移動して、みっちいさんの必殺技がさく裂して立て続けに釣り上げることになるのですが、それ以前に、西川船長と三宅副隊長の驚くような技を目の当たりにすることになります。

それは、瀬戸内海の海原のたった一つのポイント。レーダーもあり魚探も装備しているとはいえ、潮止まりから急速に動き始めた流れの中で、左舷でキャストしているみっちいさんの竿先から伸びるラインの落ち場場所がそのポイントにくるように操船する…。スラスターと舵と微速とハルへ当たる潮流を巧みに調整しての凄技に感動してしまいました。

写真もOK。釣果もOK。…『午前中の出来高OKです(^)』ってことで、秘密のポイントを後にして、少し遅めのお昼ごはんへFG-35を走らせました。向かう先は家島諸島 男鹿島の中村荘です。

おっと!こちらで誌面が尽きてしまいました。次号6月号にこの続きを掲載しましょう。次号のタイトル予定は『みっちい…瀬戸内の食レポを極めたか? 快晴風有波高し編』です。

取材・撮影・文責:Sea&Sea編集室 三村康彦



# みっちい桜鯛ビッグファイト!

……快晴風有波高し編

釣り人 みっちい

同行者 FG-35船長  
S&S協議会会長

西川氏  
那須裕史  
(みっちいサポート隊 隊長)

三宅 毅  
(みっちいサポート隊 副隊長)

ポートDEフィッシング著者



そしてついたのが男鹿島の中村荘。浮桟橋に横付けして早速上陸です。この宿は12月から3月の期間はノリ養殖のために休業しているそうです。ですから4月12日はシーズン開業間なしの訪問となりました。

[http://www.geocities.jp/nakamura\\_sou/](http://www.geocities.jp/nakamura_sou/)

ここで水揚げされる瀬戸内海の旨い魚はここ以外にも食べられるということらしいです。丹波篠山「イタリアンダイニング茜」・神戸三宮・大阪福島「海心丸」・京都祇をん「八咫」など定期的に送られているブランド魚!です。期待がMAXになっています。

みっちいさんもここにこしながら今日のスペシャルティを待ちます。

大皿ののって出てきたのは「天然鯛のお造り」メて調理したてなので尾びれが動いています。

…うーん。これが釣りがかった!…と、みっちいさんの心の中が見えるようです。

次の大皿はヒラメ・カワハギなどの盛り合わせ。さらには、カレイの姿刺身盛りの大皿が続きます。瀬戸



内海の旨い魚がこれでもかとお出てきました。刺身で残ったタイのアラは味噌仕立てのうしお汁に、カレイのアラはこれまた超絶旨の骨煎餅になって食卓へ戻ってきました。

みっちいさんはきっと食通でいらっしゃるはず。桜鯛、肝醤油でいただくカワハギ・カレイなども眼鏡にかなったと信じて疑いません。それが証拠に、みっちいさんのブログにもこのお料理のことが書かれてありました。

みっちい オフィシャルブログ『みっちいの一釣懸命やっせんねん』  
<https://ameblo.jp/michimichi/>  
大変おいしゅうございました。ごちそう様でした。

少し遅めの昼食を終えた我らが『みっちい瀬戸内海爆釣り鯛』…なんだかそのたびにタイトル変ってる?(^^)…は最後のファイトに向かうために桟橋のFG-35へ。

しかし、沖合はところどころ白波が立ち始めています。停泊している船も大きな揺れです。

実際、日中の潮止まりの地合いも時も水温が上がらず活性も低かったので、何となくアタック回避の様相です。みっちいさんの新幹線の時間も考慮しつつの、西川船長・那須隊長・三宅副隊長の決定は……悔し涙を流しつつ苦渋の決断……母港へ帰港!と相成りました。

瀬戸内海の魚影は決して逃げたりはしません。

次回必ずリベンジするとこの海に約束して海上の帰路につきました。

隊長・副隊長の頭の中には『次回のイベントをいつにしようか?』という想いがぐるぐる回っていたのだらうと思います。それが証拠に、着岸してすぐに、岡山から駆けつけてきた協議会の小幡事務局長との緊急3者会談が行われたことを、取材班の私はしっかり見ております。(^^)



確かに魚影はしっかりと魚探に反応していました。しかし、前日の低気圧が悪かった。桜鯛は海の底で少しばかり休眠していたようです。それもこれもフィッシング!自然相手に上段で振りかざしたって、所詮人と海なら海に分があります。

みっちいさんには再びの瀬戸内海の釣行を極めていただけるように準備することをお約束して、今回の『Sea&Sea 創刊100号記念特別企画 春の瀬戸内海…みっちい桜鯛ビッグファイト!…残念無念低気圧に負けました編』を終えることとなりました。事故なく元気に帰港できて万々歳!でした。

取材・撮影・文責:Sea&Sea編集室 三村康彦

# さすが!!女性アングラーみっちい!!

## 完全不漁の中、 笑顔とテクニックで ご対面!!

西川船長操船有難うございました。  
那須隊長・三宅副隊長お疲れさまでした。

みっちいこと石崎理絵さん…  
ようこそおいでくださいました。  
有難うございました。

最後にみっちいさんから  
素敵なメッセージを  
いただいております……。



「みなさん、はじめまして。みっちいこと石崎理絵です。釣りや  
ポート関連を中心にタレント活動しています。大阪出身なのですが東京在住で、  
なかなか瀬戸内での釣りを体験できないので、今回このような企画に参加させていただけてとても  
嬉しかったです。普段操船している東京湾とは景色も違うし、波も穏やかで、とても新鮮でした。気軽に上陸で  
きるスポットも多いのは魅力的ですね。  
肝心の釣りですが、私の殺気が強すぎたのか渋い状況でした。その中でも三宅さん、そして船長があれこれ考  
えてくださってメバルとガッシーに出会えました。マダイを釣る事ができなかったのは悔しいですが…おいしい  
食べ物、そして温かい人達に恵まれて、今回は幸せな時間を過ごすことができました。皆さん、本当にありがと  
うございました☆  
絶対にまた行きたいと思います。東京からはひかりだと乗り換えなしで行けちゃいますからね。  
これからはポート遊び・釣りと楽しいシーズンになりますが、安全釣行で満喫してくださいね♪」



### つよしのポートフィッシング講座 無念の1号お休み宣言!

4月12日のリベンジをするため、私 三宅毅は再び  
みっちいさんといっしょに瀬戸内海を攻めてきました。  
題して「キジハタFIGHT」です!

この釣行は次号7月号の「つよしのポートフィッ  
シング講座」で詳しく解説いたします。

### 【6月号プレゼントについて】

6月号プレゼントはみっちいさんサイン入りYAMAHAロゴTシャツです。  
前日の作戦会議では瀬戸内海の美味珍味を美味しくいただきました。特に『べらた  
(地域によっては「のれそれ」)』…穴子の幼魚に感動されていました。



詳しい  
応募内容は

**P30** →  
へGO!!

# 釣りアイドルみっちい参戦！ リベンジ編

## つよしのボートDEフィッシング！

### No.109 みっちい 雉ハタ ファイト!!



ボートDEフィッシングは先月号のリベンジ釣行として、釣りドルみっちいさんをゲストに御招きしてのフィッシング講座となっております。はたしてリベンジなるのか！

今回、本命真鯛狙いと最近水温が上がってきて活性の上がってきたアコウ（雉ハタ）も狙いながら釣っていきたいと思います。このアコウ、関西ではアコウと呼ぶのが一般的ですが、雉の模様のような綺麗な斑点が身体にある事から『雉ハタ』とも呼ばれています。

全国的に生息しているようですが、群れではあまり行動せず単独で岩場など流れの速い海域に生息し、カニやエビ主に甲殻類を捕食し、大きく成長すると魚類も捕食するようになるそうです。食しても美味しく、身は淡泊で歯ごたえのある筋肉質の食感で、冬のフグに匹敵するような美味しさから冬のク、夏のアコウと言われるほど美味しい魚です。私は釣りたてを薄造りにし柚子ポン酢で食べるのをお勧めしています。鍋にしても良し、皮も湯引きにして美味しく食すことが出来捨てる場所がないと言われていた大変美味しい高級魚アコウ！

ボートフィッシングなら高級魚もまだまだ釣る事ができます。  
この夏はボートで旬のアコウを釣りに行こう！



### リベンジ キジハタ 実践編

5月19日 小潮 満潮11:40 干潮19:00 YAMAHA FG-35

6:00 出航 先月のボートフィッシングが低調な釣果に終わってしまいましたので、フィッシングアドバイザーの汚名を返すべくリベンジ編という事で女性アングラー『みっちい』さんと気合を入れての出航です。前回表紙を飾るべき魚を釣る事が出来なかったため御無理をお願いして『みっちい』さんにはお越しいただいております。

本命はピンクの真鯛ですが、水温も上がって活性のあがってきたキジハタ（あこう）も狙っていきたいと思います。

8:00 ポイント到着 ここは水深60M前後の潮通しの良い、所々に起伏があってよく根掛かりするポイント。本日は仕掛けはまず泳がせ釣りで釣ります。エサは生餌のイワシです。来る途中イワシは調達しています。このポイントは最近調査済みなので、必ずリベンジするぞ！と気合をいれながら、エサのイワシを付けてスタートフィッシングです。イワシは直ぐ弱るので扱いは敏速に行い、口先の固い部分に掛けるようにしています。バケツに海水を溜めてその中で作業することでエサの持ちが良いでしょ。

このポイントは底が岩場で起伏が激しく、すぐに底を切らないと根がかりしてラインブレイクをよくするので、最初にみっちいさんにフィッシングアドバイザーのレクチャー。この日はさらに2枚潮にもかかわらず、みっちいさん全くブレイクせずに重たい電動仕掛けを操っています。流石。Wonderful!

8:30 『何か来たあ！』とみっちいさんの竿にヒット。竿先にしばらくの間目を向けるもあまり引かない。うーん、真鯛ではなさそうだ。慎重にみっちいさんがリールを巻き上げてきたのは**体長20センチUPのガシラ**でした。

8:53 またまたヒット！ 今回は竿先がグイグイ、グイグイ曲がっている。『多分鯛が来た！』とみっちいさんも我々も念願の真鯛が釣れたと思いきやテンションMAXです。しばらくのやり取りの後上がってきたのは魚体がピンクではなくシルバーに眩しく輝く**25センチUPのイシモチ**でした。上がってくるまでの期待と希望は凄かったのですが…！

しかし本命が釣れなくとも船上は盛り上がるボートフィッシングってやっぱり楽しいです（笑）

9:30 アタリはあるものエサ取りにエサを取られたりクラゲ攻撃にあたりと釣れない時間がしばらく続き……。

9:53 みっちいの竿が再びグイーとしなる。何か大物がヒットしたようだ。先ほど真鯛だと思っ真鯛ではなかったので誰もが魚種を言わない！（笑）竿がUの字を描くように曲がっている。みっちいの顔にも真剣さが伺えます。丁寧にそして慎重に巻いて…大きな赤い魚影が水面下に浮かび上がる。『真鯛だー』と叫ぶもよく見るとなんとB I Gサイズの『アコウだー』。そして最後はタモでGET！そして上がってきたのは**44センチのアコウ**でした。

15:00 この後もみっちいさんアコウを釣り、私の竿に真鯛が釣れました。

今回みっちいさん、瀬戸内の真鯛に会うという機会でしたが、釣って頂く事が出来なかったのが心残りですが、次回の課題という事でストップフィッシング！

【今日の釣果】 アコウが2匹、真鯛1匹、ガシラ1匹、イシモチ1匹でした。